別添資料8　利用者数･売上高等データ

（1）　年間来場者数

東日本大震災が発生した平成 23（2011）年度を除き、開業以来、令和３（2021）年度まで毎年度 100 万人以上の来場を達成した。当初の数値目標である年間 82 万人を上回っている。

増築・駐車場拡張工事が完了した平成 30（2018）年度には過去最高となる約 118 万人を記録した。

平成 30（2018）年度から令和２（2020）年度にかけては減少しており、令和２（2020）年度以降は新型コロナウイルス感染拡大による影響があるものと想定される。

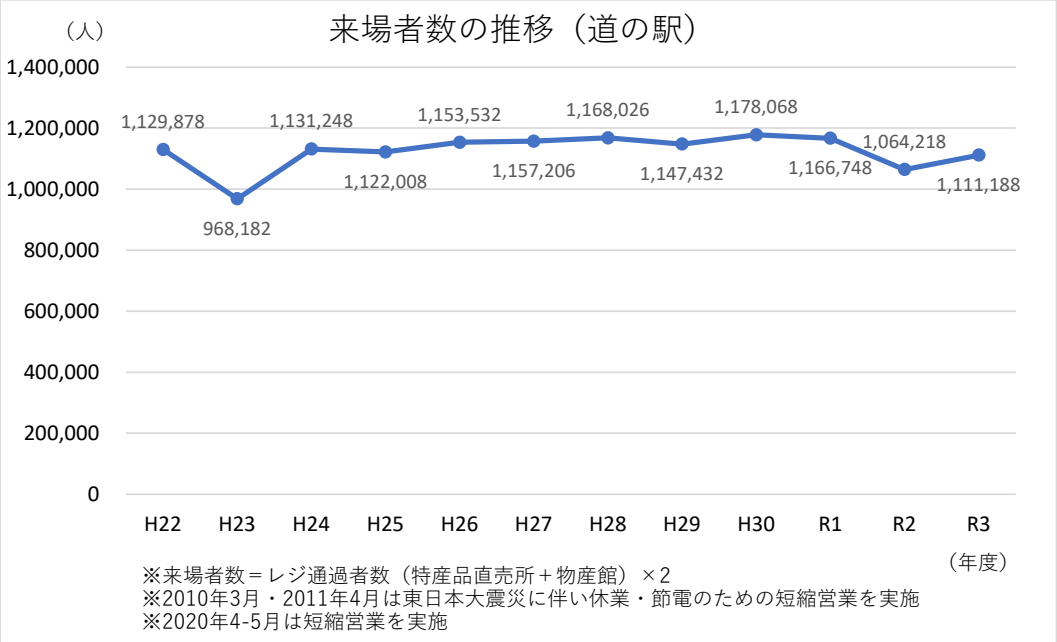

図　道の駅の来場者数の推移

（2） 係留桟橋、昇降スロープ、利用ゾーン（親水）の利用者数

係留桟橋の利用者数は、開業初年度から平成26(2014)年度まで４年連続で増加し、平成29(2017)年度には900人を超えたが、令和元（2019）年度以降は500人前後となっている。

昇降スロープの利用者数は、水陸両用バスを用いたイベントを実施した平成26（2014）年、平成27（2015）年度のみ3,000人を超えているものの、その他の年度では2,000人以下となっている。なお、SPCによると、平成28（2016）年度に前年度の約半数まで減少したのは、スロープに生じた亀裂のためイベントが継続できなかったためである。

利用ゾーン（親水）の利用者数は、イベントが実施された平成28（2016）年度のみ600人を超えているものの、その他の年度では年間100人以下となっている。

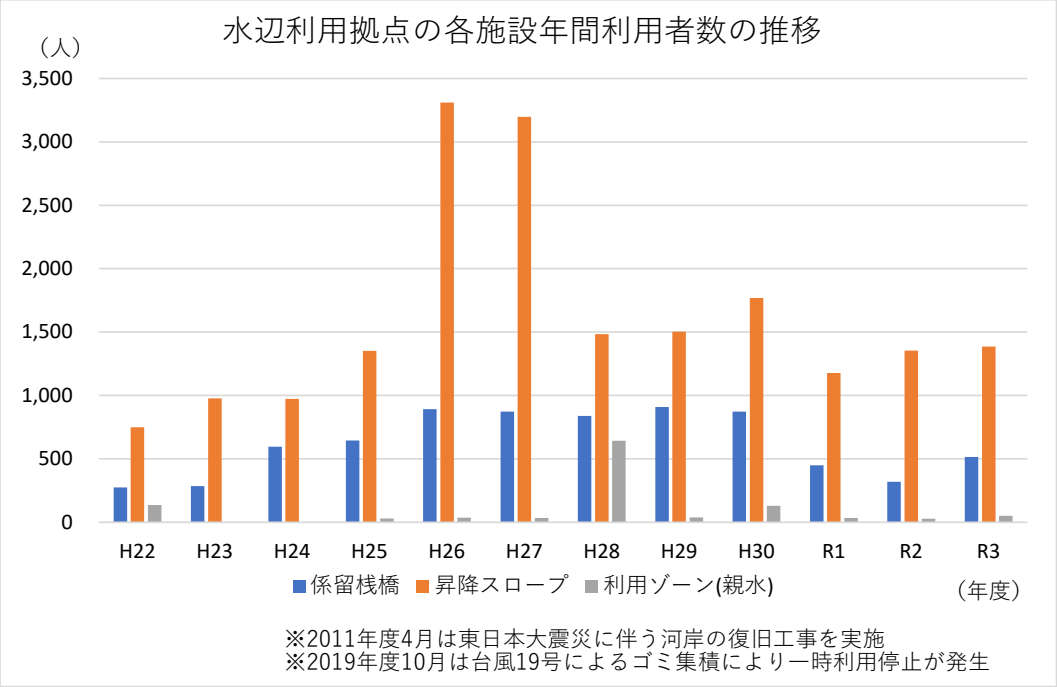

図　水辺利用拠点の各施設年間利用者数の推移

（3） 船舶昇降スロープ係留桟橋、ロッカー・シャワー、情報収集室（多目的研修室）の売上高

船舶昇降スロープ係留桟橋の売上高は、料金の値上げもあり、平成 23（2011）年度から令和３（2021）年度まで 10 年連続で増加している。令和２（2020）年度には、新型コロナウイルスの感染拡大にもかかわらず 140 万円近くに達して過去最高となっている。

ロッカー・シャワーの売上高は、全ての年度において年間 10 万円以下となっている。

情報収集室（多目的研修室）の売上高は、開業以来、平成 29（2017）年度まで一貫して増加しており、平成 29（2017）年度には 30 万円を超えている。ただし、平成 30（2018）年度以降は減少に転じており、令和２（2020）年度以降は年間 10 万円以下となっている。

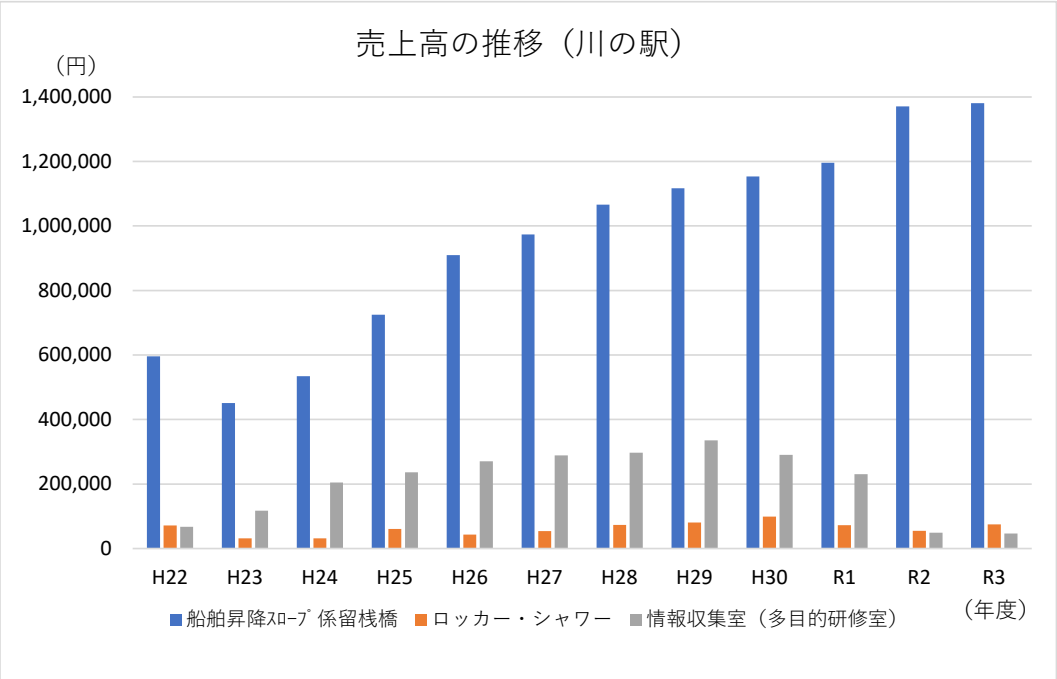

図　売上高の推移（川の駅）

（4） 特産物直売所等のレジ通過者数

特産品直売所のレジ通過者数は、平成 23（2011）年度から平成 28（2016）年度まで５年連続で増加しており、平成 29（2017）年度に増築工事、平成 30（2018）年度に駐車場の拡張工事が完了し平成 30（2018）年度は 50 万人を超え過去最多となった。

物産館、フードコートのレジ通過者数は、開業初年度が最も多くなっている。

令和２（2020）年度には、いずれの施設も新型コロナウイルス感染拡大に伴う営業時間短縮等の影響により減少している。

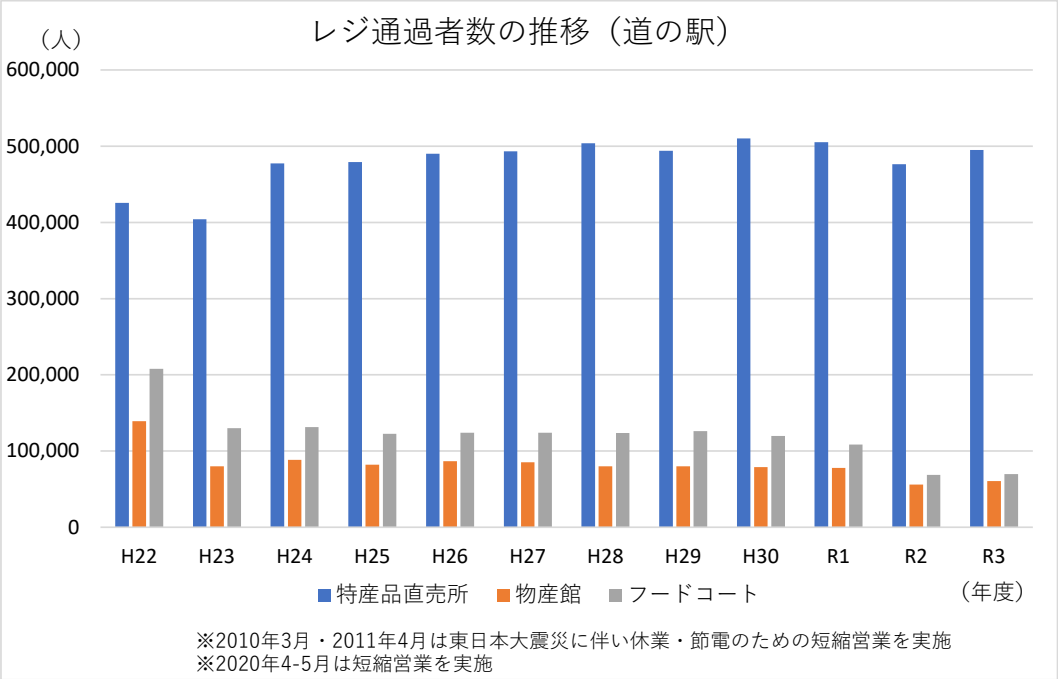

図　レジ通過者数の推移（道の駅）

（5） 特産物直売所等の売上高

特産品直売所の売上高は、平成 28（2016）年度から平成 29（2017）年度を除き、令和３（2021）年度まで一貫して増加しており、令和３（2021）年度も新型コロナウイルス感染拡大にもかかわらず過去最高となっている。

物産館、フードコートの売上高は、開業初年度が最も多くなっている。

総売上は、令和２（2020）年度に物産館、フードコートの売上高が減少した影響を受けて前年比減となったものの、令和３（2021）年度には増加に転じ、過去最高となっている。

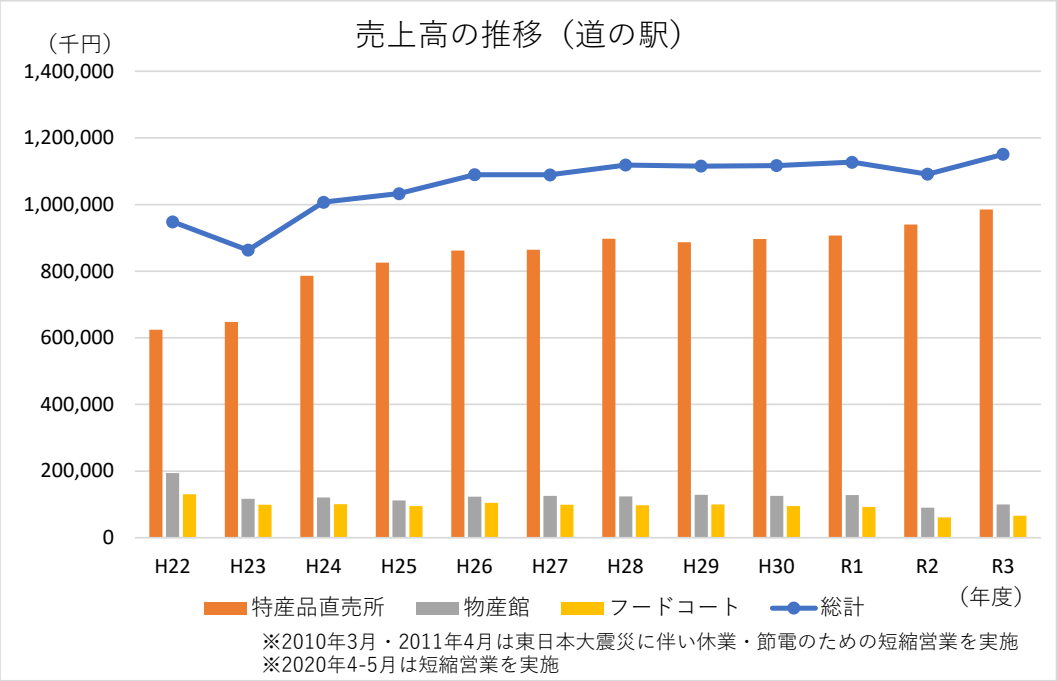

図　売上高の推移（道の駅）

(6)　【参考】レジ通過者数あたり売上高

客単価を測る指標としてレジ通過者数あたりの売上高に着目すると、３施設ともに開業初年度から増加しているが、一貫して特産品直売所が最も高くなっている。

特産品直売所では令和元（2019）年度から令和２（2020）年度にかけて過去最大の増加幅となっており、新型コロナウイルスが感染拡大する中で買いだめ傾向が強まっていることがうかがえる。

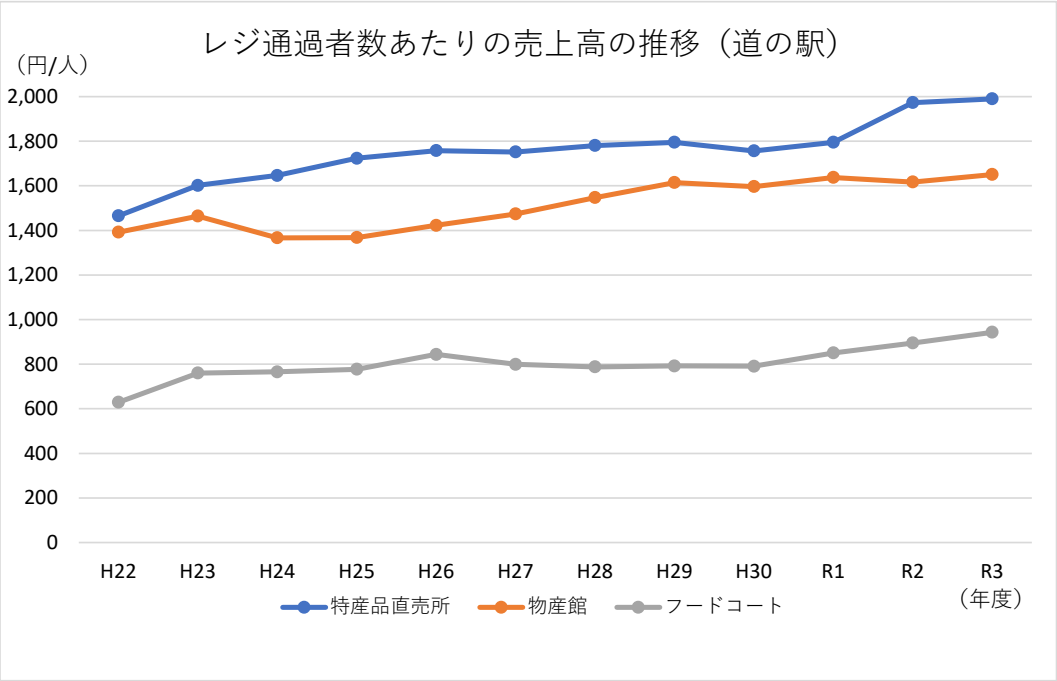

図　レジ通過者数あたりの売上高の推移（道の駅）

（7） 災害対策支援室（多目的研修室）の利用者数

災害対策支援室（多目的研修室）の利用者数は、増減を繰り返しているものの平成 30（2018）年度以前は概ね 2,000～3,000 人の間で推移している。令和元（2019）年度のみ 4,000 人近くの利用が見られるが、SPC によると、同年に複数発生した大型台風の影響で社会的に防災意識が高まったことが影響している。

令和２（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用休止もあり 1,000 人以下となっている。

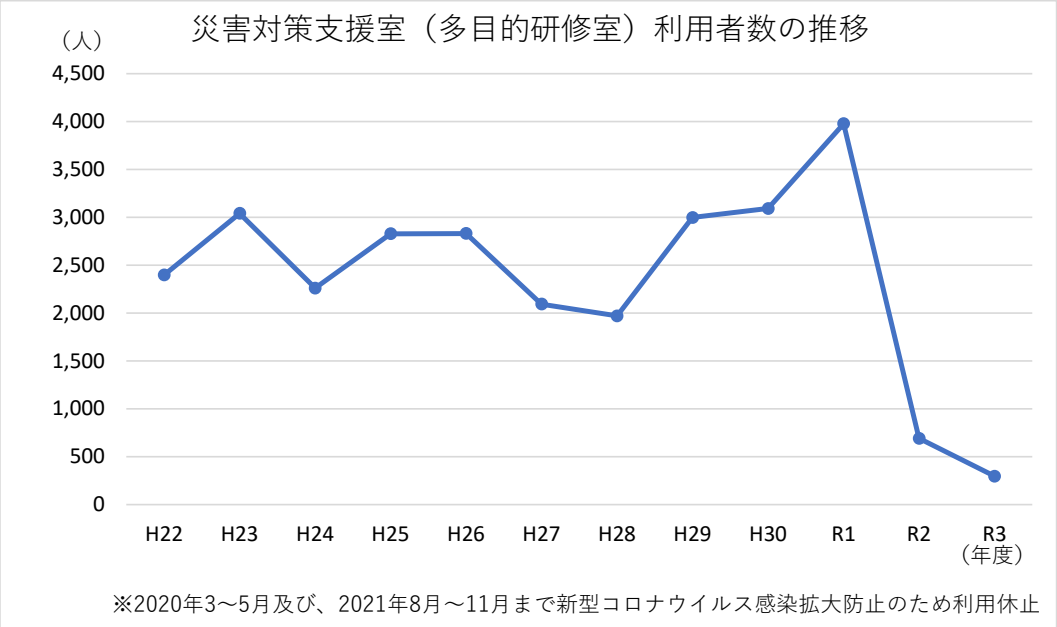

図　災害対策支援室（多目的研修室）利用者数の推移

（9） 川の駅レンタサイクルの売上高

川の駅におけるレンタサイクルの売上高は、平成 23（2011）年度に前年度比２分の１以下まで落ち込んだものの、同年度以降は、平成 28（2016）年度から平成 29（2017）年度を除き、令和２（2020）年度まで一貫して増加し、令和２（2020）年度には台数増強等もあって平成 23（2011）年度の約５倍近くまで達している。

令和３（2021）年度には 70 万円近くまで達して過去最高となっており、自転車利用ニーズが高まっていることがうかがえる。

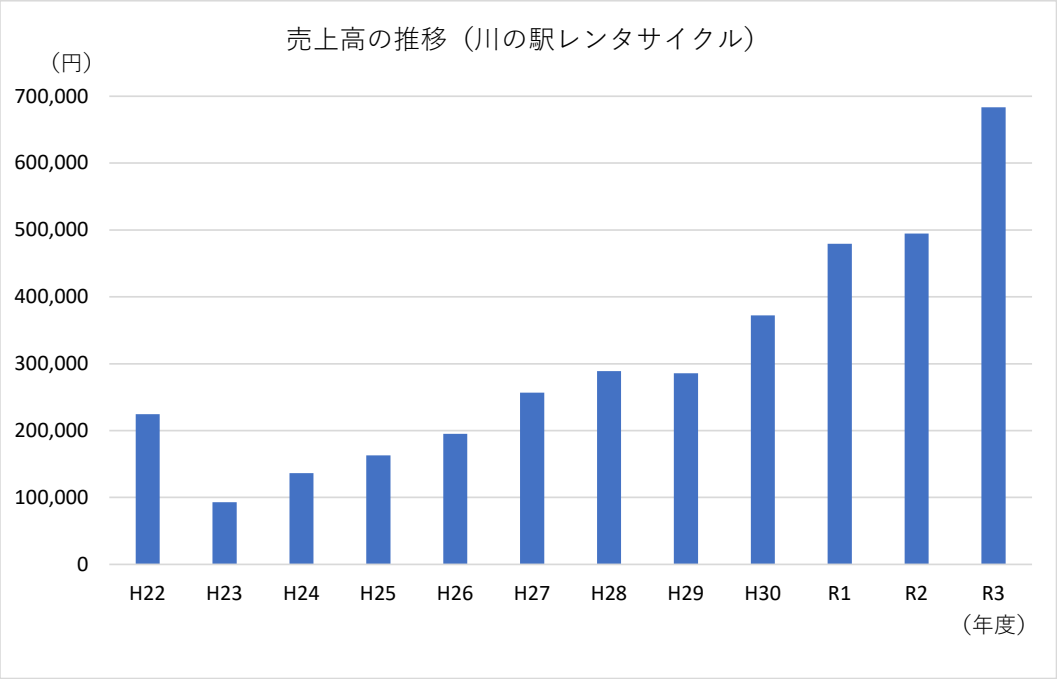

図　売上高の推移（川の駅レンタサイクル）

（10） 川の駅レンタルボートの売上高

開業後４年間は 20 万円以下で推移していたが、平成 26（2014）年度以降は概ね 20 万円から 40 万円の間で推移している。

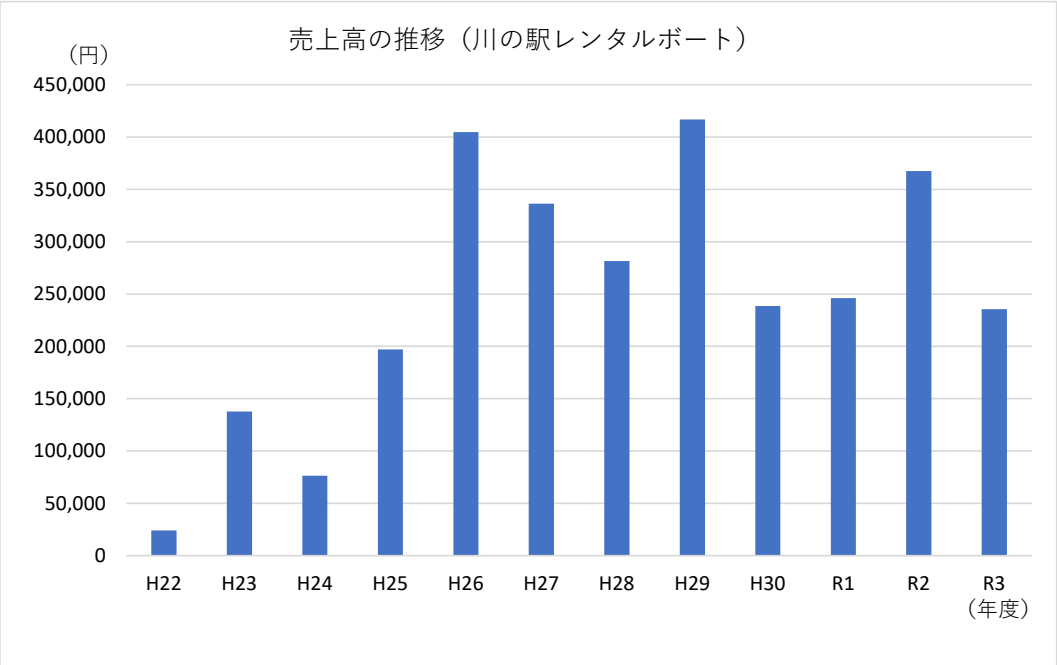

図　売上高の推移（川の駅レンタルボート）

（11） 特産品直売所等における出荷者への支払額

特産品直売所等における出荷者への年度別支払額は下記のとおり、平成 27（2015）年度以降は 7 億円を上回っている。

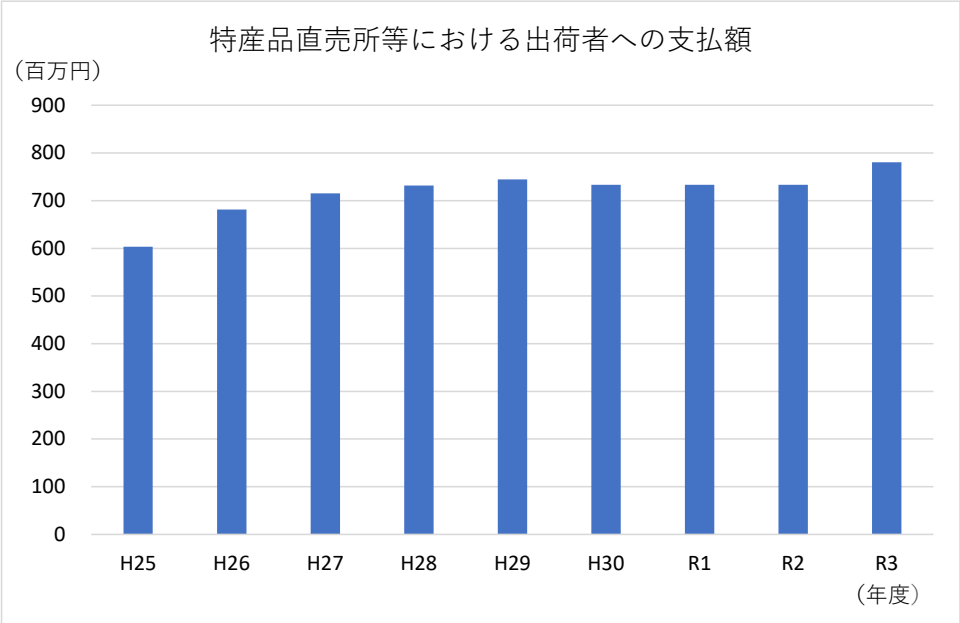

図　特産物直売所等における出荷者への支払額